

VI. 資料

1. 会議等

1) フィールド科学センター運営委員会

令和元年度フィールド科学センター運営委員会の審議内容を表VI-1 に示した。令和元年度は運営委員会が2回開催され、令和元年度の年間主要計画、平成30年度の決算、附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター長候補適任者の推薦について審議され、了承された。

表VI-1 令和元年度 フィールド科学センター運営委員会の開催日時と審議内容

月 日	場 所	参加 人数	議 題	報 告
令和元年 6月5日	農学部 大会議室	16	1. 平成31（令和元）年度各グループ主要 計画について 2. 平成30年度決算について	1. 平成31（令和元）年度フィールド科学センター利用申請 について 2. 平成30年度施設設備更新改修等報告
令和元年 12月16日	農学部プレ ハブ棟1階 113多目的室	15	附属亜熱帯フィールド科学教育研究セン ター長候補適任者の推薦について	1. 令和元年度年間主要計画の中間報告 2. 令和元年度生産物販売の中間報告 3. 令和元年度追加フィールド使用許可状況報告 4. 農場まつり（第17回ワークショップ）報告

（表作成：波平）

2) フィールド科学センター専任教員会議（専任会議）

令和元年度フィールド科学センター専任会議（前後学期月1回の定例開催、構成員：専任教員と事務担当職員、開催日時：第3水曜日13:00）の審議内容および開催日を表VI-2 に示した。令和元年度は定例の専任会議12回と2回の臨時専任会議が開催された。その内容は、事務・運営に関する審議（27.8%）が最も多く、次いで、フィールドでの教育研究（18.8%）およびその他の地域貢献や技術職員の資格取得に関する審議（18.8%）が多かった。

表VI-2 令和元年度フィールド科学センター専任教員会議審議内容および開催日

	事務・ 運営	使用申請 審議	予算	運営 委員会	規定等 改正	事業 計画	教育 研究	農場・演習林 協議会	その他 (地域貢献・資格)
審議件数	29	10	6	4	0	3	19	11	19
割合(%)	27.8	9.9	5.9	4.0	0	3.0	18.8	10.9	18.8
開催日	前期（計7回）：4/17、5/22、6/5（臨時）、6/19、7/17、8/16、9/25 後期（計7回）：10/16、11/20、12/18、1/16、1/28（臨時）、2/20、3/18								

（表作成：波平）

3) 千原フィールド会議と技術職員会議

令和元年度千原フィールド会議は、毎月第一月曜日の11時から開催され、令和元年度は12回の会議を開催した。会議では各グループからの業務計画の確認、先月の収入実績報告、当月の行事予定等の確認を行った。令和元年度は全グループにおける技術職員の配置替え（人事異動）が行われたため、毎週月曜日の8:30から15～30分程度の技術職員会議を実施し、週ごとの事務連絡を含めたグループ間での業務調整を行った。

2. 利用状況

令和元年度長期使用申請および許可条件一覧表を表VI-3～5 に示した。30 日以上の長期間使用は千原フィールド農場が 19 件で前年度より使用が 1 件増加した。上原研究園も 5 件で前年度より使用が 1 件増加した。与那フィールドも 23 件で前年度より使用が 5 件増加した。

表VI-3 令和元年度フィールド使用申請および許可条件一覧表（千原フィールド 農場）

番号	申請者		区分	研究目的	使用場所	許可面積	使用方法	元年度成果	許可期間・許可条件 (下部記載)
	所属	氏名							
1	沖縄科学技術大学院大学	吉村正志	継	「美ら森プロジェクト (OKEON)」における、沖縄環境モニタリング	1. 2. 19 番圃場		SLAM トラップ 3 基・ピットホールトラップ 3 セット・気象観測装置 1 式・カメラ/ビデオトラップ 2 基・音声トラップ 2 基	○	～令和 2 年 3 月 31 日・④、○設置物には所属および連絡先等を明記すること。
2	理学部	仲宗根桂子	継	ミドリサンゴが産出するラテックスに含まれる高分子成分の抽出法およびその物性	近代化施設横	16 m ²	鉢植えのミドリサンゴ (高さ 2m 以内・8 個)		～令和 2 年 3 月 31 日・④、⑤
3	沖縄園芸福祉協会	赤嶺光	継	園芸福祉によるガーデン整備活動	実習講義室西側	250 m ²	庭園づくり		～令和 2 年 3 月 31 日・①、④、機材の片付けを行うこと。
4	農学部	川本康博	継	熱帯性牧草および飼料作物の栽培と利用に関する研究	15 番圃場の 2 筆	6a 4. 5a	牧草の栽培・調査		～令和 2 年 3 月 31 日・①④、定期的な刈り取りを行うこと。
5	〃	川本康博	継	熱帯性牧草および飼料作物の栽培と利用に関する研究	タンク横圃場	2 a	牧草の栽培・調査		～令和 2 年 3 月 31 日・①④、道路側の美化を行うこと。
6	〃	伊村嘉美	継	暖地型牧草および飼料作物の栽培と利用に関する研究	20 番圃場	50a	供試牧草のサンプリング		～令和 2 年 3 月 31 日・①④、入口の美化について、刈り取りを行うこと。
7	〃	伊村嘉美	継	暖地型牧草および飼料作物の栽培と利用に関する研究	2 番圃場	10a	飼料作物の栽培・調査		～令和 2 年 3 月 31 日・①④、法面の刈り取りを行うこと。
8	〃	仲村一郎	継	イネの栽培方法の確立 (植物育種学実験、およびフィールド実習Ⅱ) 鳥ニンジン栽培方法の確立 (卒業論文研究)	1 番圃場	6a	栽培管理/ホース 20m		～令和 2 年 3 月 31 日・①、④、⑤、○水管理に留意すること。
9	法政エイサー	高田協平 (学生)	継	エイサーの練習	トラクター練習場				～令和 2 年 3 月 31 日・①、○練習終了後には原状回復すること○路上駐車はしないこと。○夜間の騒音に配慮すること。
10	農学部	平良英三	継	ICT を活用した高効率栽培技術の確立	8 番圃場ビニールハウスの一部	約 141 m ²	鉢植えマンゴー4 樹 果菜類		～令和 2 年 3 月 31 日・①、⑥
11	〃	佐々木慎二	新	動物解剖生理学実習	牛舎		メス牛の血液採取		～令和 2 年 3 月 31 日・②
12	作物園芸サークル	齋藤冬樹	継	サークル活動	9 番圃場の一部	255 m ²	植物育成、圃場管理		～令和 2 年 3 月 31 日・①、④、○施設および水管理に留意すること。
13					9 番圃場・1 番ガラス室	250 m ²			～令和 2 年 3 月 31 日・①、④、○施設および水管理に留意すること。

14					10 番圃場の一部	250 m ²			～令和2年3月31日・ ①、④、○施設および水管理に留意すること。○路上駐車禁止。
15	農学部	仲村 一郎	新	島バナナの栽培（バナナの品種改良に関する研究）	1 番圃場	150 m ²	栽培管理/ホース 20m		～令和2年3月31日・①、④
16	〃	川本 康博	新	ニワトリの飼養管理に関する研究	畜産管理棟南側一角	100 m ²	平飼いゲージ（6×12 m）		～令和2年3月31日・①、②、④
17	〃	川本 康博	新	在来家畜（与那国ウマ）を活用したアニマルウェルフェアやアニマルセラピーに関する研究に供するため	19 番圃場	28a	メス 2 頭		～令和2年3月31日・①、②、④、※動物実験委員会に許可申請提出（9月）
21 番圃場の一部					70a	オス 2 頭			
19	〃	川本 康博	新	在来家畜（山羊）を将来、試験に関する為の馴致飼育をおこなう	21 番圃場の一部		オス 3 頭、メス 1 頭（ヤギ）		～令和2年3月31日・①、②、④

許可条件：特に記述がない場合は、令和元年4月1日～令和2年3月31日 ①許可施設・圃場周辺の美化に心がけること （表作成：大兼）

②家畜伝染病予防法を遵守すること ③豚飼養に支障がないように配慮する ④調査期間または調査・研究終了時には原状回復を行うこと ⑤調査の際は、職員に事前連絡を行うこと ⑥フィールド運営および他の調査研究と使用場所が競合しないようにすること ⑦安全に留意し事故の無いようにすること

表VI-4 令和元年度フィールド使用申請および許可条件一覧表（千原フィールド 上原研究園）

番号	申請者		区分	研究目的	使用場所	許可面積	使用方法	30年度成果	許可期間・許可条件（下部記載）
	所属	氏名							
1	農学部	井上 章二	継	しろあり野外試験	上原研究園	150 m ²	飼育箱 40 箱設置		～令和2年3月31日・①、④、⑤
2	沖縄科学技術大学院大学	吉村 正志	継	「美ら森プロジェクト（OKEON）」における、沖縄環境モニタリング	上原研究園		SLAMトラップ 3 基・ピットホールトラップ 3 セット・気象観測装置1式・カメラ/ビデオトラップ 2 基・音声トラップ 2 基	○	～令和2年3月31日 ④・○設置物には所属および連絡先等を明記すること。
3	工学部	安田 啓太	継	亜熱帯地域におけるミツバチ生産の制限要因の解明と工学的手法による生産効率の向上	上原研究園		養蜂用巣箱 4 箱 用具入れ 1 台 測定器用ボックス 1 台		～令和2年3月31日・①、④、⑤、○巣箱周囲にロープを貼る○注意看板を設置する
4	農学部	高橋 誠	継	ヒハツモドキ果実が食品加工によって受ける香りや機能性に与える影響について	上原研究園		栽培・調査	○	～令和2年3月31日・④、⑤
5	農学部	朝比奈 匠	新	琉球大学内のゴミムシの種多様性	上原研究園		衝突版トラップ ⁶ 6 個 ピットフォールトラップ ⁴ 4 個		～令和2年2月15日・①、④、⑥、⑦、入園日はフィールド事務室から上原研究園出入口の鍵を受け取ること。

許可条件：特に記述がない場合は、令和元年4月1日～令和2年3月31日 （表作成：大兼）

①許可施設・圃場周辺の美化に心がけること ②家畜伝染病予防法を遵守すること ③豚飼養に支障がないように配慮する ④調査期間または調査・研究終了時には原状回復を行うこと ⑤調査の際は、職員に事前連絡を行うこと ⑥フィールド運営および他の調査研究と使用場所が競合しないようにすること ⑦安全に留意し事故の無いようにすること

表VI-5 令和元年度フィールド使用申請および許可条件一覧表（与那フィールド）

番号	申請者		区分	研究目的	使用場所	許可面積	使用方法	元年度成果	許可期間・許可条件 (下部記載)
	所属	氏名							
1	農学部	井上章二	継	亜熱帯森林流域の水循環における森林土壌の影響に関する研究	与那フィールド 77 林班		土壌水分センサーの設置・土壌水分観察および人工降雨による現地浸透実験		～令和2年3月31日・②、③、④、 ○許可区域および周辺の環境保全を心がけること
2	防災科学技術研究所	林春男	継	広帯域地震観測施設を設置し、地震データを得るため	与那フィールド 79 林班ち小班	126 m ²	地震観測施設設置		～令和2年3月31日・①、②、③、④
3	情報通信研究機構	長妻努	継	太陽活動に伴う亜熱帯地域での地磁気変動の観測	与那フィールド 78 林班イ小班 林道沿い		コンテナ Box (約 120 cm ³)・ケーブル 400m・プリアンプ・センサー(フラックスゲート磁力計)		～令和2年3月31日・①、②、③、④
4	沖縄科学技術大学院大学	吉村正志	継	「美ら森プロジェクト(OKEON)」における、沖縄環境モニタリング	与那フィールド 76 林班ほ・へ 小班尾根沿い		SLAMトラップ 3 基・ピットホールトラップ 3 セット・気象観測装置1式・カメラ/ビデオトラップ 2 基・音声トラップ 2 基	○	～令和2年3月31日・②、③、④、
5			継	「美ら森プロジェクト(OKEON)」における、沖縄環境モニタリング	与那フィールド 里山研究園		SLAMトラップ 3 基・ピットホールトラップ 3 セット・気象観測装置1式・カメラ/ビデオトラップ 1 基・音声トラップ 1 基	○	～令和2年3月31日・①、②、③、④
6	名誉教授	宮城一郎	継	蚊の調査	与那フィールド 旧宿舍周辺		トラップ 5 個設置 プラスチック製容器(直径 20 cm×高さ 23 cm)		～令和2年3月31日・①、②、③、④、○トラップには氏名連絡先等を記載。
7	森林総合研究所	小高信彦	継	ノグチゲラをはじめとする森林動物の生態調査	与那フィールド 全域		自動撮影カメラ 5 台		～令和2年3月31日・②、③、④
8	九州大学理学部	大崎遙花	継	クチキゴキブリ類の生態学研究	与那フィールド 77.78.79 林班の林道	5 地点各 3 m ²	風倒木処理された材(20 cm×100 cm) 20 個程度		～令和2年3月31日・②、③、④
9	森林総合研究所九州支所	上田明良	継	食物資源をとおした腐肉食性昆虫の競争排除を利用したマングース消息数の推定	与那フィールド 79 林班い・ろ 小班	6 地点各 0.5 m ²	昆虫捕獲トラップ6基・マウス利用者観察セット 3 基		～令和2年3月31日・①、②、③、④、
10	農学部	谷口真吾	継	亜熱帯林の生態系機能の解明	与那フィールド 79 林班は小班	2500 m ²	微気象観測タワー1基(高さ 14.9m) フェンス・センサー類		～令和2年3月31日・①、②、③、④、○設置物の管理責任は申請者自身が負うこと
11					与那フィールド 79 林班沿いおよび79 林班は小班的のタワーにかけての作業道沿い	—	電柱 27 本＋ 電柱 1 本＋ コルゲート管 230m		
12	沖縄科学技術大学院大学	Vladimir Dinets	新	鳥類標識調査	里山研究園内 作業道の一部		かすみ網(12m×3m50 cm)ポール(高さ 3m60 cm)ポール立用の塩ビ製パイプ(長さ 20 cm程度)		～令和元年12月31日・①、②、③、④
13	風樹館	佐々木健志	継	ヤンバルテナガコガネの保護増殖における野外実験	与那フィールド 78 林班イ小班 79 林班ち小班		シイ材の木箱(50×50×100 cm=250ℓ) 9 個設置		～令和2年3月31日・②、③、④

14	野生生物保護センター	小野宏治	継	沖縄島北部地域マングース防除事業におけるマングース捕獲またはモニタリング	与那フィールド全域		わなの設置 300 地点カメラ・誘引餌・ヘアトラップ 40 地点設置		～令和2年3月31日・②、③、④
15	京都大学大学院情報学研究科	Jason Hideki Preble	新	リュキュウテンゴウモリとヤンバルホオヒゲゴウモリのねぐら追跡調査と自動録音装置を用いる分布調査	与那フィールド 77.78 林班の林道沿いと 76 林班の歩道沿い		超音波用自動録音機 3 台を各地点で3日間設置する		～令和元年6月4日・①、②、③、④
16	沖縄県環境部自然保護課	比嘉貢	継	ノイヌおよびノネコによる、ヤンバルクイナ等の希少生物捕食被害から、希少生物の保護を図るためノイヌノネコ捕獲の実施	与那フィールド 76～79 林班		金属製箱わな、木製箱わな、自動撮影カメラ等設置		～令和2年3月23日・①、②、③、④
17	沖縄県保健医療部衛生薬務課	新城光雄	新	平成 31 年度ノイズ対策事業委託業務	与那フィールド 76～79 林班		くくりわな 60 基・自動撮影カメラ 50 台		～令和2年3月19日・①、②、③、④
18	理学部	傳田哲郎	新	ヤマビワソウ(イワタバコ科)の送粉生態に関する研究	与那フィールド 78 林班内の林道沿い		インターバル撮影袋かけ実験		～令和2年3月31日・①、②、③、④、○ フィールド運営および他の調査研究と使用場所が競合しないようにすること。
19	博物館	佐々木健志	継	ヤンバルテエナガコガネの保護増殖における野外実験	与那フィールド 79 林班イ小班				～令和2年3月31日・①、②、③、④
20	京都大学大学院	橋爪雅人	新	受動的音響モニタリングによるクビワオオコウモリの生態調査	与那フィールド 78 林班内の林道沿い、他		録音機 2機		～令和2年3月31日・①、②、③、④、⑤
21	沖縄ちゅら島財団	阿部篤志	新	環境省および日本植物園協会の連携事業「希少野生植物の生息域外保全実施への協力」に関する生育環境調査および種子採取	与那フィールド 78 林班イ小班				～令和元年11月30日・①、②、③、④
22	名古屋大学	能勢正仁	新	誘導磁力計を用いた自然電磁場の計測	与那フィールド 79 林班ろ小班		誘導磁力計センサー 3 本、収納ケース、電柱 1 本等設置		～令和2年3月31日・①、②、③、④
23	沖縄工業高等専門学校	渡邊謙太	新	二型花柱性植物ポロボキの系統地理・送粉生態的研究	与那フィールド 79 林班		個体識別用ビニールテープまたはマスキングテープ貼付		～令和2年3月31日・①、②、③、④

許可条件:特に記述がない場合は、令和元年4月1日～令和2年3月31日 ①許可区域および周辺美化に心がけること (表作成:大兼)
 ②安全に留意し事故の無いようにすること ③入林日は担当職員と事前に連絡協議すること ④調査期間または調査・研究終了時には原状回復を行うこと ⑤フィールド運営および他の調査研究と使用場所が競合しないようにすること。

3. 利用者数

1) 千原フィールド

令和元年度千原フィールド(上原研究園を含む)における利用者数を表VI-6に示した。なお、教育利用は授業コマ数×学生数で、研究利用およびサークル利用等は利用人数×日数で概算した。令和元年度の全利用者数は9,446人で、前年度の9,737人と比べて3%の減少となった。

内訳別に平成30年度実績(括弧内数字)と比較すると、農学部の教育利用は3,528人(4,093人)と13.8%の減少、研究利用も2,155人(2,330人)の7.5%の減少となった。教育利用の主体は前年度同様、「基礎フィールド実習」1,764人(1,728人)と「フィールド実習Ⅰ・Ⅱ」1,395人(1,020人)であり、その他は、地域農業工学科担当の「測量学実習」330人(336人)および「地域環境実験Ⅱ」18人(33人)あった。一方、他学部の研究利用は322人(132人)と143.9%の増加であった。

サークル活動利用は、「作物園芸サークル」および「法政エイサー」が主体で2,608人(2,608人)と、前年度同様となった。なお、学外利用者・その他は、614人(566人)と8.5%の増加となった。

表VI-6 令和元年度千原フィールド(上原研究園含む)利用者数

区 分	農 学 部		他 学 部		サークル 活動	学外利用者・ その他	合 計
	教育利用	研究利用	教育利用	研究利用			
千原フィールド	3,528	2,025	219	166	2,608	544	9,090
上原研究園	0	130	0	156	0	70	356
合 計	3,528	2,155	219	322	2,608	614	9,446

注)千原フィールド専任教員の研究は除く。 教育は授業1コマ×学生数を単位とし、他は1日単位とした。

(表作成: 當間)

2) 与那フィールド

令和元年度の与那フィールド利用者数を表VI-7(a)に示す。また、前年度の年報で掲載漏れとなっていた平成30年度の与那フィールド利用者数を表VI-7(b)に示す。令和元年度の利用者は、合計では前年度比715人(33%)の増加となった。

令和元年度の農学部による利用は、教育利用は前年度比43人(9%)の微増であったが、研究利用は436人(180%)の大幅増となった。このことは、亜熱帯農林環境科学科の卒論研究による利用が著しく増加したことや、やんばる地域の森林を研究対象とするポスドク研究員の利用があったことに起因している。

他学部による利用は、教育利用が前年度比274人(60%)の減少となった。このことは、平成30年度に開催された理学部による国際実習が行われなかったことや、国際地域創造学部の演習科目による利用が減少したことなどに起因している。研究利用は22人(20%)の増加であった。

学外やその他の目的による利用は、前年度比488人(55%)の増加であった。このことには、平成30年度は台風で中止となった愛知教育大学の実習が再開されたこと、新規に清心女子高校の研修を受け入れたこと、森林利用学会の学生セミナー、土壌動物学会のエクスカッションといった学会関連のイベントが行われたことなどが寄与していた。また、学外からの研究利用も前年度の527人から690人と163人(31%)増加していた。

令和元年度の利用者宿泊日数は表VI-8の通りである。前年度比511泊(43%)増の1,712泊となった。農学部の利用者は、先述のポスドク研究員や亜熱帯農林環境科学科の学生などにより前年度比407泊(136%)の大幅増となった一方、他学部の利用者は193泊(59%)の減少となっていた。学外やその他目的の利用者は297泊(52%)の増加となっていた。

表VI-7(a) 令和元年度 与那フィールド利用者数

	農学部		他学部		学外・その他	合計
	教育利用	研究利用	教育利用	研究利用		
宿 泊	340	602	160	97	1,130	2,329
日帰り	173	76	19	34	244	546
合計	513	678	179	131	1,374	2,875

※ 宿泊・日帰りともに、利用人数×利用日数で算出した。

(表作成: 稲福・高嶋)

表VI-7(b) 平成30年度 与那フィールド利用者数

	農学部		他学部		学外・ その他	合計
	教育利用	研究利用	教育利用	研究利用		
宿 泊	310	213	453	69	618	1,663
日帰り	160	29	0	40	268	497
合計	470	242	453	109	886	2,160

※ 宿泊・日帰りともに、利用人数×利用日数で算出した。

(表作成: 稲福・高嶋)

表VI-8 令和元年度 与那フィールド利用者宿泊日数

	農学部	他学部	学外	合計
教職員・一般	289	11	325	625
学 生	418	124	545	1,087
合計	707	135	870	1,712

※ 日数は、利用人数×利用日数で算出した。

(表作成：稲福・高嶋)

表VI-9 令和元年度 与那フィールド利用一覧

	所属	代表者氏名	利用人数	利用数 (延日数)	利用目的
(教育利用)					
1	農学部フィールド科学センター	高嶋 敦史	156	167	基礎フィールド実習 (前期)
2			12	46	亜熱帯林体験実習 (前期)
3			31	124	フィールド実習Ⅲ (後期)
4			5	19	森林情報計測学実習 (後期)
5		陳 碧霞	23	46	森林ツーリズム論 (前期)
6		波平 知之	6	6	グローバルサイエンスキャンパス
7	農学部亜熱帯農林環境科学科	松本 一穂	10	25	森林生態学実験 (前期)
8		立田 晴記	21	42	昆虫学実験 (前期)
9		谷口 真吾	10	38	造林学実習 (後期)
(農学部主体 教育利用小計)			513		
10	理学部物質地球科学科地学系	新城 竜一	32	96	海洋地学実習 (前期) ※後期に実施
11	教育学部理科教育専修	富永 篤	9	9	生物学実験Ⅳ (前期)
12	国際地域創造学部国際地域創造学科	大島 順子	18	36	観光学演習Ⅰ (通年)
13					観光学演習Ⅱ (通年)
14			10	10	公開講座「やんばるで学ぶ世界自然遺産学習」
15			14	28	教員免許状更新講習
(他学部主体 教育利用小計)			179		
16	東邦大学	土岐田 昌和	23	115	野外生態学実習Ⅰ
17	愛知教育大学	島田 知彦	36	144	野外生物実習
18	清心女子高校	田中 福人	24	72	亜熱帯自然探究
19	辺土名高校	東 竜一郎	21	42	環境科 宿泊学習
(その他主体 教育利用小計)			373		
(研究利用)					
20	農学部フィールド科学センター	小林 峻	1	274	環境研究総合推進費「世界自然遺産のための沖縄・奄美における森林生態系管理手法の開発」
21	大学院農学研究科	矢部 岳広	6	17	イスノキ植栽木の成長に侵入木と斜面位置が与える影響 / 沖縄島やんばる地域の非皆伐林における大径木の生育状況
22		泉川 太志	4	11	やんばる地域のリュウキュウマツ人工林における木本植物の種構成
23		大嶋 優希	6	17	やんばる地域の二次林における30年生から40年生にかけての遷移 / 沖縄島やんばる地域の天然林におけるリュウキュウマツの出現傾向
24	農学部亜熱帯地域農学科	菅原 暢泰	6	17	やんばる地域における天然林優占種の台風被害後の葉量とその後の再生
25		大浦 雅生	12	34	イジュ人工林の除間伐施業効果の検証

26		田村 舞	10	31	与那フィールドにおける炭焼き窯の立地と周辺の樹木の再生状況
27	農学部亜熱帯農 林環境科学科	井上 章二	9	9	亜熱帯森林流域の水循環における森林土壌の影響
28		松本 一穂	15	27	GCOM-C 陸域生態系プロダクトの検証観測/木材の分解に関する研究
29		加藤 三步	5	7	外来生物の防除研究
30		坂本 幸志郎	19	57	沖縄島北部の亜熱帯常緑広葉樹林における有機物生産量とその配分
31		阿部 隼人	29	113	沖縄島北部の亜熱帯常緑広葉樹林における地上部枯死有機物の動態
32		新聞 一心	9	27	混交状態にある亜熱帯人工林の階層別樹冠サイズが植栽木、侵入木の直径成長に及ぼす影響
33		當眞 勇人	10	37	リュウキュウマツ人工林の帯状伐採による残存林帯の環境の変化
(農学部主体 研究利用小計)			678		
34	大学院理工学研究科	北 朋紘	10	40	ウナギ属魚類の流程分布調査視察
35	理学部海洋自然 科学科生物系	傳田 哲郎	9	13	ヤマビワソウ (イワタバコ科) の送粉生態に関する研究
36		久保田 康裕	40	78	王立 Kew 植物園のミレニアムシードバンクとの共同研究で使用する種子採集
(他学部主体 研究利用小計)			131		
37	北海道大学	加藤 知道	5	17	亜熱帯林における生態系光合成活性把握のための分光放射観測
38		江指 万里	1	6	人為的環境改変によるリュウキュウコノハズクニ系統の同所化と浸透性交雑に関する研究
39	信州大学	安江 恒	5	12	スギ・ヒノキにおける気候変動影響評価にかかる年輪コア試料採取
40	三重大学	北川 雄大	4	12	スギ林の土壌に生息する微生物群集の解明
41	京都大学	プレブル ジェ イソン 秀樹	9	71	リュウキュウテングコウモリとヤンバルホオヒゲコウモリの調査
42		橋爪 雅人	1	37	受動的音響モニタリングによるクビワオオコウモリの生態調査
43	神戸大学	松原 慧	1	7	植食性昆虫の落下行動に寄主植物が及ぼす影響
44	岡山大学	兵藤 不二夫	5	22	与那フィールドの昆虫相、土壤動物相の調査
45	愛媛大学	田中 宏卓	1	4	沖縄島におけるカイガラムシの分類学的研究
46		吉田 一樹	3	22	日本産ホソムシヒキ亜科の分類学的研究 (双翅目: ムシヒキアブ科)
47	九州大学	大崎 遥花	4	40	クチギゴキブリ類の生態学研究
48	首都大学東京	廖 浩全	3	12	琉球列島に生息する無脊椎動物の調査
49	沖縄科学技術大 学院大学	Evan Economo	62	62	美ら森プロジェクト (OKEON) における沖縄環境モニタリング
50	慶應義塾大学	中村 滉	12	44	夜行性猛禽類の存在が「やんばる」の生物多様性を指標するのかの解明
51	愛知教育大学	渡邊 幹男	1	3	食虫植物モウセンゴケ属とモウセンゴケトリバの種間相互作用の解明
52	鳥取短期大学	田川 一希	2	9	食中植物コモウセンゴケとモウセンゴケトリバの種間相互作用の解明
53	台湾師範大学	Yuan Cheng Cheng	3	33	オキナワアオガエルの音声コミュニケーションに関する研究
54	森林総合研究所	佐藤 大樹	1	2	昆虫寄生菌に関する研究
55	森林総合研究所 北海道支所	上田 明良	6	22	南西諸島の環境および生物相に配慮した持続可能な森林管理手法に関する研究
56	森林総合研究所 九州支所	小高 信彦	44	186	環境研究総合推進費 「世界自然遺産のための沖縄・奄美における森林生態系管理手法の開発」
57	沖縄県森林資源 研究センター	新垣 拓也	9	18	林内微気象観測 / 海岸防災林調査
58	宜野湾市立博物 館	千木良 芳範	4	12	座津武川上流におけるカエル類五種の生態的研究
59	自然環境研究セ ンター	元陳 力昇	3	9	沖縄県北部固有絶滅危惧陸産貝類の生息状況調査
60	沖縄美ら島財団	阿部 篤志	2	2	希少野生動物の生息域外保全実地への協力に関する生育環境調査および種子採取

61	沖縄県緑化推進委員会	古堅 公	7	14	海岸防災林の効果向上技術開発事業
62	日本工営	米城 才文	4	4	松くい虫被害の平成 29 年から 30 年度からの推移の把握
63	バスコ	吉永 新一郎	8	8	バックバック型ライダーシステムによる植生観測
(その他主体 研究利用小計)			690		
(その他)					
64	博物館(風樹館)	佐々木 健志	26	26	沖縄コンベンションビューローうちなー観光ナビゲーター養成講座
65	三重大学	板谷 明美	29	58	森林利用学会 学生セミナー
66	沖縄国際大学	齋藤 星耕	28	56	日本土壌動物学会 第 42 回大会エクスカージョン
67	鳥取環境大学	袖洞 一央	9	27	ゼミのフィールドワーク
68	環境省やんばる自然保護官事務所	上開地 広美	15	15	ホテル等自然観察会
69	沖縄県農林水産部森林管理課	仲宗根 綾乃	14	14	コウヨウザンの視察
70	沖縄県立総合教育センター	林 尚美	8	8	長期研修員向けの野外実習
71	北谷町教育委員会社会教育課	仲地 桃子	35	35	林道観察
72	森林教育研究所	佐野 淳之	1	2	清心女子高校研修の下見および打ち合せ
73	日本野鳥の会やんばる支部	久高 将和	35	35	夜間の鳴き虫(マツムシ・タイワンクツワムシなど)観察会
74	NPO 法人やんばる舎	市田 則孝	18	18	野鳥観察
75	琉球放送	長濱 明美	3	3	ケナガネズミの生息環境についての取材
76	一般	棚原 澄子	4	4	カクチョウランおよびイルカンダの観察
77		菊田 一朗	3	3	バードウォッチング
78		亀倉 知恵	1	1	散策
79		曾我 浩	2	6	野鳥観察
(その他利用小計)			311		
合計			2,875		

※ 代表者や利用目的ごとに集計を行っているため、同行者の所属は反映されない

(表作成：稲福・高嶋)

4. 外部資金獲得状況

(Md. Amzad Hossain)

- 1) ウコン品種の調査と商品開発に関する研究 (e-no 株式会社) 940,671 円

(赤嶺 光)

- 1) 共同研究費：「沖縄にけるコーヒーの栽培研究」(ネスレ日本株式会社) 300,000 円
 2) 受託研究費：「ギンネムの化学的および生物的防除の検討」(株式会社南西環境研究所) 600,000 円
 3) 奨学寄附金：(丸和バイオケミカル株式会社) 285,000 円

(陳 碧霞)

- 1) 科研費基盤 (B)：「統一手法を用いた景観復元による琉球弧の伝統的村落空間に関する普遍的原理の探究」(18H01612) 100,000 円
 2) 寄付金 (国際共同研究)：「地域農産物と島嶼地域の観光」平成 31 年度公益財団法人琉球大学後援財団教育研究奨励事業 185,000 円

(高嶋敦史)

- 1) 環境研究総合推進費「世界自然遺産のための沖縄・奄美における森林生態系管理手法の開発」サブテーマ名：緩衝地帯や周辺地域の生態機能評価と森林の管理・再生に関する研究（環境省，委託先：森林総合研究所） 6,486,890 円
- 2) 寄付金：モニタリングサイト 1000 森林・草原調査「炭素循環動態」（自然環境研究センター） 1,500,000 円
- 3) 寄付金：モニタリングサイト 1000 森林・草原調査「森林動態」（自然環境研究センター） 360,000 円
- 4) 寄付金：モニタリングサイト 1000 森林・草原調査「鳥類」（バードリサーチ） 48,000 円

(新垣美香)

- 1) 科学研究費：奨励研究「パミスサンドを用いた新たな栽培法によるパインアップルの生育および果実特性の解析」研究代表者 540,000 円

5. 施設・設備更新・改修等

(千原フィールド)

令和元年度千原フィールド施設改修等一覧を表VI-10 に示した。総額は 6,465,815 円であった。工事としては、農場車両洗浄場整備他工事 4,991 千円、給湯器改修工事 176 千円、ダイヤルイン移設工事などがあり、その他として管理棟空調機取替 269 千円、汚水排水ポンプ配管修繕 108 千円、上水給水管漏水修繕 66 千円などがあった。

表VI-10 施設改修等(千原フィールド)

改修内容	完了月	金額(円)
農場管理棟 105 室空調機取替	2019 年 7 月	269,460
農場管理棟 114 室・115 室ダイヤルイン移設工事	2019 年 7 月	36,720
近代化試験室共用実験室天井修繕	2019 年 7 月	54,000
9 番 1 号ビニールハウス漏水修繕	2019 年 8 月	33,475
農用資器材作業棟側漏水修繕	2019 年 8 月	36,000
農場管理棟事務室他空調機電源設備修繕(112,114,115 室)	2019 年 8 月	88,020
農場管理棟 103 室コンセント設備修繕	2019 年 8 月	81,000
農場管理棟 103 室空調機取替	2019 年 9 月	239,760
近代化試験室共用実験室建具修繕	2019 年 11 月	66,000
農場管理棟 106 室改修工事(給湯器)	2019 年 11 月	176,000
園芸ビニールハウス横上水給水管漏水修繕	2019 年 11 月	66,000
農場管理棟 106 室改修工事(照明・換気扇)	2019 年 11 月	113,300
農場管理棟 103 室インターネット回線修繕	2019 年 12 月	71,500
近代化試験室共用実験室天井修繕	2020 年 1 月	34,100
苗畑資器材作業棟汚水排水ポンプ配管修繕	2020 年 1 月	108,680
農場車両洗浄場整備他工事	2020 年 3 月	4,991,800
	合計	6,465,815

(表作成:大兼)

(与那フィールド)

令和元年度与那フィールド施設改修等一覧を表VI-11 に示した。総額は 1,241,526 円であった。工事としては、林道路肩改修工事 756 千円、研究棟 LAN ケーブル工事などがあり、その他として車庫前支障樹木撤去業務 270 千円、男子トイレ他照明器具取替 86 千円、宿泊棟受水槽等修繕などであった。

表VI-11 施設改修等(与那フィールド)

改修内容	完了月	金額(円)
与那演習林研究棟 LAN ケーブル配線工事	2019 年 6 月	68,278
与那演習林研究棟 202 室空調機修繕	2019 年 7 月	10,800
与那演習林宿泊棟受水槽等修繕	2019 年 7 月	49,680
与那演習林車庫前支障樹木撤去業務	2019 年 9 月	270,000
与那演習林林道路肩改修工事	2019 年 9 月	756,000
与那演習林宿泊棟1階男子トイレ他照明器具取替	2020 年 2 月	86,768
合計		1,241,526

(表作成:大兼)

6. 産業医巡視

(千原フィールド、上原研究園)

産業医による職場巡視 (令和2年2月4日)

令和元年度安全衛生管理者の職場巡視が千原フィールドで行われた。指導事項の内容および処理状況を表VI-12 に示した。職場巡視により指導を受けた事項は、建物の壁、床、天井の爆裂、建物の床の傾斜、ハブ対策の吸引器設置、コンプレッサの年1回の自主点検、刈り払い機保管台の転倒防止対策、ドラフトチャンバーの定期点検実施等であったが、建物の壁、床、天井の爆裂、建物の床の傾斜以外は、全て改善した。

表VI-12 産業医などによる職場巡視の指導事項および処理状況(令和元年度)

場 所	指導事項	処理状況
1. 管理棟事務室	・ 棚およびテレビの転倒防止について (昨年度の保留分)	・ 転倒対策が実施されていることを確認。
2. センター長室	・ 棚の転倒防止について (昨年度の保留分) 棚上下の連結について改善依頼あり。	・ 連結を行った。
3. 上原研究園作業棟	・ 建物の壁、床、天井の爆裂が目立ちます。補修を検討してください。 ・ 建物の床が傾斜しています。補修を検討してください。 ・ ハブ対策の吸引器の設置を検討してください。 ・ コンプレッサの年1回の自主点検の実施をお願いします。 ・ 刈り払い機保管台の転倒防止対策がされていません。台の固定を行ってください。 ・ ドラフトチャンバーの定期点検の実施をお願いします。 ・ シャワールームに設置されているロッカーの転倒防止対策がされていません。ロッカーの固定を行ってください。	・ 施設運営部へ補修を依頼した。 ・ 施設運営部へ補修を依頼した。 ・ 設置を行うこととした。 ・ 点検を実施する。 ・ 台の固定を行った。 ・ 点検を実施する。 ・ ロッカーの固定を行った。
4. 上原研究園ポンプ室	・ 建物の壁、床、天井の爆裂が目立ちます。補修を検討してください。 ・ 床の傾斜が目立ちます。また、床の段差が出現しています。補修を検討してください。	・ 施設運営部へ補修を依頼した。 ・ 施設運営部へ補修を依頼した。

(表作成:大兼)

(与那フィールド)

産業医による職場巡視（令和元年年 6 月 11 日）

令和元年度安全衛生管理者の職場巡視が与那フィールドで行われた。指導事項の内容および処理状況を表VI-13に示した。職場巡視により指導を受けた事項は、学内禁煙に関する情報提供、転落防止の表示、かかり木の除去（伐採）、枝の剪定、本棚の転倒防止対策等であったが、アスベスト含有の可能性のある実験機器と玄関壁面の爆裂以外は、全て改善した（処理予定含む）。

表VI-13 産業医などによる職場巡視の指導事項および処理状況(令和元年度)

場 所	指導事項	処理状況
1. 宿泊棟	・学内禁煙に関する情報提供がなされていない。	・禁煙ポスターを掲載し、外にあった灰皿は撤去した。
2. 研究棟裏の川沿い	・転落防止の表示をお願いします。	・看板「転落注意！」を表示し、周囲を刈り払った。
3. 研究棟および宿泊棟周辺	・ハブ注意の表示について、増やすようにしてください。 ・センダンの大木の枝が折れて、かかり木になってカラーコーンで注意喚起が行われていますが、かかり木の除去（伐採）を検討ください。	・ガラス室周辺など3カ所増やした。 ・施設運営部と協議して、今月9/25～26に除去する予定。
4. 車庫	・廃液容器が使用期限を超過しています。新しい容器に交換してください。	・廃液はチェーンソーオイルなどが少量生じるだけであるため凝固剤を使用して処理することとした。廃液を貯蔵する用途では使用しない。
5. ガラス室	・周辺の木々の枝がガラス室の屋根を覆っています。枝の剪定をお願いします。	・手が届く範囲の枝木は職員で剪定し、手が届かない枝木は、かかり木と一緒に今月9/25～26に処理する予定。
6. 研究棟	・トリの糞が目立ちます。清掃をお願いします。 ・エアコン使用時にたびたびブレーカーが落ちるとの口頭報告がありました。	・清掃した。 ・点検業者に確認を依頼したが、漏電は確認できなかった。点検後不具合無し。
7. 実験室 301	・アスベスト含有の可能性のある実験機器について、ラッピングを確認。機器全体をラッピングで覆うように指示しました。	・全てラッピングし、他学部の廃棄に併せて廃棄する事となっている。
8. 資料室 203	・本棚の転倒防止対策をお願いします。	・転倒防止の対策をした。
9. 宿泊棟	・玄関壁面の爆裂が進行しています。修繕依頼を行ってください。 ・ベランダの排水溝のつまりがあります。（木の葉が原因）	・施設運営部が9/20に現場の確認を行う予定。 ・周囲の木の葉がベランダ内に落ちてこないように剪定し、清掃した。

(表作成：大兼)

7. 予算決算

令和元年度におけるフィールド科学センターの決算を表VI-14に示す。

車両消毒槽設置経費および与那フィールドの土地借地料を除くフィールド科学センターへの予算配分は総計19,231千円であり、平成30年度配分の19,422千円から191千円(1%)の減となり、千原フィールドには14,701千円、与那フィールドには4,530千円が配分された。

車両消毒槽4,991千円は防疫対策として、衛生管理区域入口へ設置した。

表VI-14 令和元年度フィールド科学センター決算

(単位：円)

区 分	千原フィールド			与那フィールド		
	予算配分額	執行額	差 引	予算配分額	執行額	差 引
グループ経費	6,123,601					
圃場グループ	255,315 *1	706,320	-451,005			
広域グループ	294,506	151,344	143,162			
施設園芸グループ	636,839	633,896	2,943			
畜産グループ	4,936,941	4,977,897	-40,956			
小計	6,123,601	6,469,457	345,856			
共通管理経費	8,004,686			4,163,250		
旅費交通費		513,360			710,180	
備品費		105,624			0	
消耗品費		430,208			866,566	
電気料		2,293,028			590,433	
上下水道料		1,024,146			100,605	
ガス料		80,252			20,372	
車両維持費		511,336			586,117	
油脂燃料費		657,149			177,948	
通信（切手）		10,922			4,450	
電話料		106,069			277,359 *2	
印刷費		87,480			0	
複写機賃貸料		163,478			40,368	
パソコン賃借料		82,949			0	
研究基盤センター手数料		42,890			3,400	
総合情報処理センター手数料		0			3,000	
新聞購読料		49,926			36,900	
修理・営繕費		804,905			268,278	
農演協議会費等		51,600			30,000	
全国大学農演年報		0			3,960	
産業廃棄物処理費		12,747			0	
清掃業務委託		178,266			77,000 *3	
実習経費		419,245 *4			131,680 *4	
研修費		56,051			14,520	
雑役務		64,352 *5			102,118 *5	
共通管理経費 小計	8,004,686	7,745,983	258,703	4,163,250	4,045,254	117,996
車両消毒槽設置経費 小計	4,991,800 *6	4,991,800	0	—	—	—
土地賃借料 小計	—	—	—	11,557,000	11,557,231	-231
合計	19,120,087	19,207,240	-87,153	15,720,250	15,602,485	117,765
教員研究費						
研究経費	573,210	589,796	-16,586	367,023	377,115	-10,092

注) 教員の教育費は研究経費に組み込んだ *1 研究成果有体物の収益額未収のため 1,126,710 円減 (表作成: 上原)

*2 インターネット使用料含む *3 演習林清掃業務委託は害虫防除作業 *4 実習経費は基礎フィールド実習借上げバス、フィールド実習Ⅱの豚導入、餌の購入 *5 雑役務は、NHK 受信料、アンテナ線共架料等 *6 緊急的措置として追加配分された経費である

8. 与那フィールド歳入・歳出

令和元年度の与那フィールド宿泊利用者の人数および宿泊数の内訳と、歳入歳出金額を表VI-15に示す。例年は12月の利用は少ないが、令和元年度は理学部の実習や学会セミナーが開催されたことで、月間の宿泊数合計が200泊を超えた。1月の宿泊数が少ない傾向は例年通りだったが、3月は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、後半からキャンセルの影響も出て宿泊数が少なくなった。

歳出では、平成30年度末時点で支払いが保留されていた平成30年10月分、平成31年2～3月分（合計288,113円）の支払いも行われた。その一方で、令和元年10月分、同12月～令和2年3月分（合計552,733円）は令和元年度中の支払いが保留された。

表VI-15 令和元年度 与那フィールド月別宿泊利用人数および歳入歳出金額一覧

月	教職員・一般 (有料)		教職員・一般 (無料)		他大学生等 (有料)		琉大学生 (無料)		宿泊人数合計	宿泊数合計	歳入 (円)			歳出 (円)	歳出備考
	人	泊数	人	泊数	人	泊数	人	泊数			衛生費	施設使用料	合計		
4	8	25	1	23	6	35	9	13	24	96	14,000	56,000	70,000	167,433	平成30年10月分+平成31年2月分
5	38	77	1	24	8	10	8	8	55	119	27,500	113,800	141,300	10,108	平成31年4月分
6	20	27	2	27	41	111	36	36	99	201	51,000	104,400	155,400	120,680	平成31年3月分
7	7	19	1	30	5	27	19	36	32	112	18,500	42,800	61,300	242,965	令和元年5月分+6月分
8	15	33	3	19	6	70	40	109	64	231	38,500	88,200	126,700	0	
9	15	33	1	24	47	131	11	16	74	204	37,500	124,800	162,300	0	
10	9	17	1	18	29	68	32	53	71	156	36,000	64,600	100,600	199,580	令和元年8月分
11	32	49	1	23	1	5	21	60	55	137	30,500	71,600	102,100	270,019	令和元年7月分
12	23	39	1	25	26	43	46	96	96	203	49,500	80,400	129,900	93,365	令和元年11月分
1	5	15	2	13	0	0	1	2	8	30	4,500	21,000	25,500	0	
2	7	14	4	19	7	31	42	125	60	189	30,500	38,200	68,700	0	
3	5	8	1	24	1	2	0	0	7	34	5,000	12,400	17,400	151,379	令和元年9月分
計	184	356	19	269	177	533	265	554	645	1,712	343,000	818,200	1,161,200	1,255,529	令和元年10月分、同12月～令和2年3月分は支払保留

注1) 宿泊人数および宿泊数は延べ日数である。

(表作成：稲福・高嶋)

注2) 衛生費欄の金額には、長期宿泊者における7泊超過毎のシーツ交換費（500円）も含まれる。

注3) 歳出額は、前年度からの繰越金および当年度歳入金を原資に、衛生費（シーツ代）、光熱水料費および宿泊者が使用する消耗品費（石鹸、シャンプー代等）へ充当した金額である。

注4) 令和元年10月分、同12月～令和2年3月分の支払保留額は合計552,733円である。

9. 気象情報

千原フィールド

表VI-16に千原フィールドにおける気象情報を示した。

令和元年度は梅雨の降水量が例年にくらべ多く6月の降水量は566.0mmを記録した。台風接近は9月21日(台風17号)の1回で最大風速は24.3m/sであった。なお、11月17日よりパソコンに不具合が生じデータの回収が不可能となったため測定データを失った。

表VI-16 令和元年度 気象情報(千原フィールド構内)

月	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	平均湿度 (%)	積算日射量 (MJ/m・m)	日照時間 (Hour)	積算降水量 (mm)	平均風速 (m/s)	最大風速 (m/s)	備考
1	17.0	24.9	11.1	71.2	277.8	90.4	27.0	2.1	12.7	
2	18.8	25.4	10.7	83.7	277.4	63.4	115.0	2.0	11.9	
3	18.9	27.3	12.9	73.0	445.6	129.8	102.0	2.3	10.5	
4	21.3	29.0	12.9	81.6	415.7	101.3	118.5	2.1	9.9	
5	23.1	29.7	17.2	79.9	531.0	144.9	225.5	1.9	9.6	
6	25.6	32.3	18.5	90.7	396.4	72.6	566.0	2.0	12.5	
7	27.9	32.9	23.3	87.7	540.1	152.8	207.5	2.1	17.1	
8	28.1	32.0	23.3	98.5	558.6	164.8	147.0	2.4	14.6	
9	26.9	31.5	21.6	87.0	455.2	132.3	273.0	2.8	24.3	台風17号
10	24.9	31.0	19.1	78.9	478.8	179.8	17.0	2.2	9.5	
11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	機器故障
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	機器故障
年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(表作成: 赤嶺)

10. 技術職員研修等

表VI-17 技術研修と派遣職員（令和元年度）

	研修内容・場所・日程	職員名
1)	「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育」 恩納村 R1.5.25	茅野太紀（技術職員）
2)	「農業機械士認定証および資格証書交付式」 うるま市 R1.5.31	屋良朝宣（技術専門職員）
3)	「第4回農水産業支援技術展」 宜野湾市 R1.6.19	屋良朝宣（技術専門職員）
4)	「第4回農水産業支援技術展」 宜野湾市 R1.6.19	茅野太紀（技術職員）
5)	「農業機械展示即売会见学」 南城市 R1.7.12	屋良朝宣（技術専門職員）
6)	「小型車両系建設機械講習会」 沖縄市 R1.7.17	河野雅志（技術専門職員）
7)	「農作業安全講習会」 読谷村 R1.8.22	屋良朝宣（技術専門職員）
8)	「伐木等の業務の特別教育講習会」 恩納村 R1.8.25～27	茅野太紀（技術職員）
9)	「第6回森林フィールド講座・四国編」 高知県 R1.9.1～6	上原一郎（技術専門職員）
10)	「第42回九州・沖縄地区牛削蹄競技大会」 糸満市 R1.9.12	屋良朝宣（技術専門職員）
11)	「第42回九州・沖縄地区牛削蹄競技大会」 糸満市 R1.9.12	村田正将（技術職員）
12)	「第42回九州・沖縄地区牛削蹄競技大会」 糸満市 R1.9.12	茅野太紀（技術職員）
13)	「令和元年度全国大学演習林協議会」 福岡県 R1.9.18～20	金城孝則（技能補佐員）
14)	「全国大学附属農場協議会秋季全国協議会」 宮城県 R1.9.19～9.20	屋良朝宣（技術専門職員）
15)	「全国大学附属農場協議会九州地域協議会および技術職員教育・研究発表会 佐賀県 R1.9.29～30	屋良朝宣（技術専門職員）
16)	「沖縄県農業研究センター成果発表会」 糸満市 R1.10.11	新垣美香（技術専門職員）
17)	「沖縄県農業研究センター成果発表会」 糸満市 R1.10.11	知花重治（技術専門職員）
18)	「沖縄型畜産排水対策課題解決モデル事業中級編マニュアル講習会」 沖縄市 R1.10.21	屋良朝宣（技術専門職員）
19)	「沖縄型畜産排水対策課題解決モデル事業中級編マニュアル講習会」 沖縄市 R1.10.21	村田正将（技術職員）
20)	「沖縄型畜産排水対策課題解決モデル事業中級編マニュアル講習会」 沖縄市 R1.10.21	茅野太紀（技術職員）
21)	「第12回日本暖地畜産学会」 大分県 R1.10.26～27	屋良朝宣（技術専門職員）
22)	「農業機械機種選定」 石垣市 R1.11.14	茅野太紀（技術職員）
23)	「沖縄地域 GAP 推進フォーラム・フードチェーン連携パートナー会」 那覇市 R1.11.21	屋良朝宣（技術専門職員）
24)	「沖縄地域 GAP 推進フォーラム・フードチェーン連携パートナー会」 那覇市 R1.11.21	村田正将（技術職員）
25)	「沖縄地域 GAP 推進フォーラム・フードチェーン連携パートナー会」 那覇市 R1.11.21	茅野太紀（技術職員）
26)	「沖縄の技術シーズを活かした地域産業活性化セミナー」 那覇市 R1.12.10	屋良朝宣（技術専門職員）
27)	「沖縄の技術シーズを活かした地域産業活性化セミナー」 那覇市 R1.12.10	村田正将（技術職員）
28)	「伐木等の業務の特別教育（チェンソー）に係る補講」 那覇市 R1.12.24	屋良朝宣（技術専門職員）
29)	「伐木等の業務の特別教育（チェンソー）に係る補講」 那覇市 R1.12.24	河野雅志（技術専門職員）
30)	「伐木等の業務の特別教育講習会」 うるま市 R2.2.12	外間 聡（技術専門職員）
31)	「伐木等の業務の特別教育講習会」 うるま市 R2.2.12	上原一郎（技術専門職員）
32)	「伐木等の業務の特別教育講習会」 うるま市 R2.2.12	金城孝則（技能補佐員）
33)	「ネスレコーヒー園施設見学」 名護市 R2.3.12	新垣美香（技術専門職員）
34)	「沖縄県農業研究センター見学」 名護市 R2.3.26	屋良朝宣（技術専門職員）
35)	「沖縄県農業研究センター見学」 名護市 R2.3.26	河野雅志（技術専門職員）
36)	「沖縄県農業研究センター見学」 名護市 R2.3.26	村田正将（技術職員）
37)	「沖縄県農業研究センター見学」 名護市 R2.3.26	茅野太紀（技術職員）
38)	「沖縄県農業研究センター見学」 名護市 R2.3.26	安里昌弘（再雇用職員）

（表作成：大兼）



国立大学法人 琉球大学農学部

亜熱帯フィールド科学教育研究センター

琉大農場まつり

第17回ワークショップ in千原

2019年
12/7 (土)
13:00~16:00
(12:30 受付)

入場無料

公開ミニ講座
13:00~13:50

(1)『野菜と果物の流通について』
センター長 内藤重之 教授 

(2)『フクギ並木と
沖縄の昔ながらの住居』
フィールド科学センター 陳碧霞 准教授 

施設公開 うし・ぶた・やぎ 餌やり体験! ミニユンボ・ホイールローダに乗ってみよう!

牧場見学・農用機械試乗体験・パネル展示・都市林見学ツアー・超高温好気性発酵システム

イベント 楽しいイモ掘り! 新鮮な琉大野菜

シモンイモの収穫体験・ハーブティー作り・サラダ菜の収穫体験・野菜販売 (売り切れ次第終了)



公開ミニ講座



樹木の見分け方



機械の乗車体験



サラダ菜収穫体験



動物とのふれあい体験



【千原フィールド】〒903-0213 沖縄県西原町字千原 1 番地
Tel: 098-895-8740 (事務)、E-mail: ngsisetu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

12. 職員構成（令和2年3月31日現在）

センター長	教授	内藤重之（農業経済学）	（専）	naitoh@agr.u-ryukyu.ac.jp
次長	准教授	赤嶺光（緑地管理学）	（専）	akamineh@agr.u-ryukyu.ac.jp
農山間域農業分野				
	准教授	伊村嘉美（家畜栄養学）	（兼）	yimura@agr.u-ryukyu.ac.jp
	〃	仲村渠将（水利環境学）	（兼）	zhunai@agr.u-ryukyu.ac.jp
	〃	仲村一郎（植物育種学）	（兼）	abreeder@agr.u-ryukyu.ac.jp
	〃	波平知之（畜産学・草地学）	（専）	namihito@agr.u-ryukyu.ac.jp
森林・沿岸域資源分野				
	准教授	松本一穂（森林生態生理学）	（兼）	kazuhom@agr.u-ryukyu.ac.jp
	准教授	陳碧霞（森林経済学）	（専）	chenbx@agr.u-ryukyu.ac.jp
	助教	高嶋敦史（森林計画学）	（専）	a-taka@agr.u-ryukyu.ac.jp
都市域農業・緑地分野				
	教授	嬉野健次（花卉園芸学）	（兼）	u1969930@agr.u-ryukyu.ac.jp
	〃	モハト`アムザト`ホサイン（熱帯植物栽培学）	（専）	amzad@agr.u-ryukyu.ac.jp
	〃	高良健作（食品化学）	（兼）	k-takara@agr.u-ryukyu.ac.jp
	准教授	金城和俊（土壌学）	（兼）	wa614@agr.u-ryukyu.ac.jp
	〃	赤嶺光（緑地管理学）	（専）	akamineh@agr.u-ryukyu.ac.jp

技術部

技術部長	准教授	赤嶺光
千原フィールド班		
技術専門職員		知花重治
〃		比嘉辰雄
〃		新垣美香
〃		河野雅志
〃		屋良朝宣
技術職員		西端統宏
〃		村田正将
〃		茅野太紀
再雇用技術職員		安里昌弘
再雇用職員		山田章夫

与那フィールド班

班長	技術専門職員	外間聡
	〃	上原一郎
	技能補佐員	金城孝則

農学部事務部

事務長	城間弘充	ngjmcho@acs.jim.u-ryukyu.ac.jp
附属施設係	係長	大兼一夫
	主任	上原信彦
	事務補佐員	當間正美
	〃	稲福唯

○亜熱帯フィールド科学教育研究センター運営委員会委員

亜熱帯フィールド科学教育研究センター

(◎センター長) 内藤重之、(次長) 赤嶺 光、(専) モハト^テアムサ^ト 村^イ、(専) 陳 碧霞
(専) 波平知之、(専) 高嶋敦史

亜熱帯地域農学科

(兼) (学) 嬉野健次、(学) 大田伊久雄、(兼) 伊村嘉美、(兼) 仲村一郎

亜熱帯農林環境科学科

(学) 立田晴記、(兼) 金城和俊、(兼) 松本一穂

地域農業工学科

(兼) 仲村渠 将、(学) 安元 純

亜熱帯生物資源科学科

(兼) 高良健作、(学) 高島幸司

※ (次長) センター次長、(専) センター専任教員、(兼) 兼務教員、(学) 学科選出委員

◎印は委員長又は議長を示す。

編集委員長	内藤 重之	亜熱帯フィールド科学教育研究センター長
編集委員	モハメド アムザド ホサイン	同 上、教授
編集委員	赤嶺 光	同 上、准教授

編集後書

琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センターは平成14年(2002年)4月に設置され18年が経過し、年報の発行も第18号となりました。時代は平成から令和へと替わり、フィールドセンターでは、令和元年度に技術職員を1名採用することができ、令和の時代に新たな気持ちで臨むことができたと思います。

上梓した本誌には、フィールドセンター技術職員による研究報告1題、技術報告2題を含め、1年間の技術部活動、普及活動・行事、教育活動、研究業績等を包括的にまとめてあります。1年の歩みは小さな冊子にしかありませんが、18冊が並ぶとそれなりの厚みとなります。とは言えフィールドセンターが真に充実・発展の歩みを進めているのかと常に自問し、フィールドセンターにおける活動に還元していく必要があると思います。

本誌に目を通された皆さまにおかれましては、フィールドセンターへのご指導ご助言を頂ければと思います。今後ともよろしく願いいたします。

令和2年8月11日
編集委員 赤嶺 光

琉球大学農学部附属
亜熱帯フィールド科学教育研究センター年報
第18号

発行日 2020年8月31日
発行 琉球大学農学部附属
亜熱帯フィールド科学教育研究センター
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL 098-895-8740 FAX 098-895-8741